





姉様を見る所によつてありとあ
の腰に小糸あり其すあきこか
えうきれをくちの庵ひむすゑと
朝あら紫綿に約取され若きこ
此様に細ひれはすまくよ
とまくよとくの款口ちよい

あらわこよ庵にかへそひ
く風すゝ流れ坂東すハ軒の松
うち通花燈がけり婦人
きてやうへられはきに友よき来る
せよ人に拂ひゆる御ひはくれき
ゆゑももすりよみお／＼と風

事のまほれあにまほれ
陶元のゆ夜故守れ故
あく瓦の鶴峯がつちよめ益
姉あらえいへん／＼とくの爲
わうためあらえいへん／＼とくの爲

されどおれへてれもと
在りずゆき
天保かのうけ
徳利亭に筆下せゆる
おほ家より

陶文新書卷之一

同緑

○酒と人にすむ詞○ハ文字むかは其の種の作
○すまほんのゑんひ英味○け店○所すまひ
蛇験○全唐詩送翻刻○けりあからす
○飯の匂が好む○三重の酒○帰座遅
○北のと○ううすきの假面○もろこしより
雪山城えれ○藝子の稱遊里の時妻○
まよ夜のほときす○もろこしの憶談理あめ

御とさ○水引の幸○へぎもぢ○オとよ文字
○えどよ文家の筆や○年忌法事せ
日○えちねの屏風○うりきやまきせ○夜
軍の繪と廁主やう

陶太新著卷之一

浪速 中湖漢叟譲撰

酒徒人に対する詞

むしろに酒徒人に対する詞。種々く詠歌をく。
今お呑むやうの心うけをく。唯ひら強に酒徒を
いがゆ。其害おほく。身代きこす。事。事。
えく。數百年がほく。かく。おほく。万治寛
文のころより。りゆういた心こと多き詠詞の筆の才。小
いい廣うとく。上戸の身によく。けふ

すや。自笑う作。志孝義門松にむかへむす郎の口
 あり。ほひとおまゝりと。世の時。宣にかたをもすれし。
 江戸吉原のうすき聲。桙くますといひうなぐ。
 登かる。其後京のゆき野が。あたまをせうす
 いひる詠。けらにまき声。さら。それより宣の
 夕方。これへきこへ。あえまよと。ひく毛は
 興あ。みそにあやしく。高間にさす杯。伏ちと
 喜びや。まよひ。いつうそく久しく是がやす。
 今。もうドロイ。向の又。い。孫あい。ひとひ能

あそひげ
太平酒高
時自宴
傳入主
子准がお
盃を主ま
妻ひげ
アガル
ばされ
一更で
たの眼
あかで
三てど
有

を。油にゆふぬずのめぢやうに。一。けぬ。ゆの
 ほき。幾なく。ほも。徑も。櫻。多。新盆。城。
 徒。き。けん。う。あ。新。ど。毛。是。ひ。た。ひ。ま。せ。こ。とい。ひ。も。
 吉田松の。手。新。が。春。か。く。と。有。又。茶。壺。と。程。言。二。
 やの。茶。壺。の。案。と。り。茶。有。毛。考。ひ。を。安。あ。れ。ゆ。き
 え。の。ぎ。り。甚。を。う。に。今。櫻。ら。う。詠。松。竹。新。が。う。ふ
 て。お。け。一。て。油。が。古。み。と。有。これ。の。事。理。強。み。有
 え。今。時。の。お。け。一。る。と。り。詠。に。は。あ。づ。

ハ文字筆か。みれ其稿の作

禁経索。乞三味線。傳文紙子。名高き。自笑。が
作あり。せゆ人。を。一。ど。え。正。法。西。年。午。正。月。の。年。役。
役者目利講。と。ふ。役者。行。刻。社。に。お。懸。ハ。都。の。花
生。け。夜。に。身。被。掛。け。り。れ。の。女。形。と。ふ。詞。事。あ。る。く。
ち。一。考。の。舞。ハ。口。上。役。松。川。六。豆。本。舞。故。上。二。吉。と。通。
今。都。に。て。口。上。い。ひ。の。年。山。口。跡。と。通。と。稱。ら。く。
あ。や。よ。く。き。こ。へ。役。人。替。名。い。い。た。と。ほ。ぬ。ば。ま。れ。く。
19。世。も。れ。算。事。大。役。主。中。は。は。役。用。主。を。名。と。る。
水。嶋。口。系。末。主。を。角。平。宇。奮。の。え。海。底。急。す。の。

むじ。い。柳。武。房。後。不。天。笠。と。名。字。が。勢。く。り。げ。く。
ふ。を。ほ。け。ぬ。は。上。の。侍。ふ。ほ。の。ぞ。そ。ざ。ら。た。の。を。あ。」
各。う。櫛。一。通。モ。引。び。ナ。レ。え。ら。ひ。き。す。東。あ。く。
さ。で。り。け。て。ゆ。こ。と。主。を。が。や。は。す。ハ。役。者。行。刻。や。
中。比。か。水。通。い。づ。あ。ハ。奪。と。手。子。や。板。が。り。く。手。こ。
古。板。と。幕。か。へ。て。或。ハ。役。者。暮。經。又。櫛。櫛。考。を。ど。
外。題。紙。聲。と。か。一。く。而。ふ。以。役。者。目。利。講。の。作。者。
其。礎。と。や。す。き。ま。三。ヶ。津。城。三。卷。こ。り。け。ひと。切
ぼ。の。序。改。つ。け。而。歎。に。上。中。又。ハ。白。字。の。上。あ。ど。

内位つけばかり。役者口三味線と題号。城
は。ふや町ハ文字やハ鷹一隻ノヤセバ。又國乃
役者にいひ。めうれむれ。毎年せどほれ。解
あづら年。仕事も一鷹。處に又二条通。かく至
れ鷹。そぞりえ。一セトセト。ぎくたのまね。やむる城は
もして。役者一社。つみと。城仕事。あれども。ハ文字
や。と。ひがむ。東方。も。林。は。事。あり。ごく。ふや
左。さ。ハ。圓。水。ヒ。ヤ。好。人。一。た。の。ハ。文。字。左。さ。ハ。例。手
た。て。す。仕。事。下。五。六。年。業。ハ。評。刻。の。度。ぞ。多。に。

先格城は。其と。の。相。言。の。歯。ア。ガ。ス。テ。自。か。ミ
モ。教。へ。き。奉。と。評。刻。の。仕。法。城。ガ。一。ハ。鷹。つ。ひ。
さ。セ。并。懸。因。緑。三。ヶ。澤。の。序。城。仕。事。一。不。経。方。ニ
城。作。老。其。殘。一。所。の。江。鳴。金。布。立。鷹。つ。ヒ。ヤ。新
城。作。ね。仕。に。つ。さ。き。未。ヒ。と。入。魂。ヒ。せ。ら。を。や。う
ふ。と。作。者。い。わ。く。ヤ。セ。ど。も。ハ。文。字。左。一。人。レ。イ。つ
チ。ド。モ。ヒ。ま。使。え。き。使。や。き。り。不。同。心。え。い。却。モ
江。鳴。金。ヒ。シ。城。古。し。て。似。せ。が。又。ハ。海。ぎ。く。ハ。あ。ヒ
革。紙。あ。ど。か。ト。ヒ。ハ。文。字。左。よ。り。改。善。が。一。伝。

作者實に仕ひて心かの裏方に存候。柳ハ文
字をハ奮つてアリ。墨紙面ハ。何よりせらへ一度く各
城費トシ。二赤印がや。は齋印ハ。吉宗あり。序
跋理中を名代取ハ。文字をハ京芝居のがづき
をば枚り仕ル。方の三事。名。城世局に。拂存知
スモモアル。すくは。経を度は。作者其稿。柳が
治太支方一上り。拔作アセ。其稿とかば
ハ文字をへ。者。一。枚打させりて。年。の
評判が。ナにおよび。以れがを三味總文。

曲三味線。禁絆索。傳文紙子。毛情あいひ
の形。佛伽若我教のあぐらきの書。數年
ほきと作。を。し。まに。各。様の。佛。と。に。ひ
ハ文字到。と。見。す。り。浮。せ。ぎ。評。判。が。の。名。取
の。や。う。に。兵。を。す。り。筆。ハ。文。字。を。あ。印。ア。レ。ル。や
作者其。模。の。切。え。レ。や。け。幅。を。か。ど。あ。ざ。り。せ
上。の。人。を。ぬ。佛。う。筆。を。取。り。下。付。文。作。者。の。実
名。取。り。と。さ。ず。作。者。ハ。文。字。を。自。笑。と。被。させ
わ。た。せ。ま。ほ。と。の。房。切。拔。之。と。す。今。ま。ハ。ハ。文

字面と右端取上まへば。たゞ鳥の舟と書て
板り仕出へて是ハ文字をも多うと賣すと
而存高島無く良弓かくらと御ふんと。切抜
さておき。是作者かや否もちひす。作者一ふの
江鳴を抜けば。一人かむに仕ぞん様。是
ナシテ南年より。江鳴を方に役者祥刻
が板に仕出ひ承。無事御ひ。脚もと來
の不見。文字を方にハ今と名狀せし。作
者の印が無い。自分が印に仕女存念存

ぬ。右は世ノ枝旁りにて奉きよどくに存
か。さきか。くぞとからんと木に。以方以せか。の或ハ
ほざく。さきか。おど。小著。代へてハ文字をあ
かへ。右は通にて。さく。をちづける事。ひか
き。を。書。け。ら。そ。ね。板。に。あ。る。事。を。の。に。ら。や。
ほざく。ち。き。と。小。書。仕。る。よ。う。と。あ。實。ま。ぎ
ら。ち。き。事。を。い。は。と。け。も。は。上。は。と。み。う。と。で
は。想。じ。て。ま。ぎ。く。ち。き。ふ。似。せ。か。ゆ。ヒ。ウ。ハ。た。と。だ
ハ。文。字。を。ハ。事。を。薦。板。を。と。仕。か。い。を。ほ。ぎ。が。

きとや全く。あの方ハ文字を板。叶方ハ江崎。板と併に。後きもちきとやつけ。ハ。美声。甚良。ハ文字を柳の評刻也。又ハ歴世かの作者。其穢とやにまざれ。喜みは成。モ傳う。の作者。の仕事。とす。新作。が。ハ文字をこう。ほぎく。と。ヤヘル。モころ。行。後。と。せん。ちく。け方の、数年おき。と。あ。作者。而。傳例の評。刻。が。新作。の。作。ハ。文字を。評。刻。と。ゆえ。ま。と。云。遊。而。もと。絶。而。從。う。や。及。板。京。芝。兵。の。評。刻。ハ。

一座をば。座のけに。仕。召。ゆ。ち。と。無。う。に。而。一。説。車。板。ハ。追。付。評。刻。の。そ。一。説。モ。は。や。う。に。而。必。等。を。うち。後。せ。ふ。五。一。説。や。布。良。左。衛。つ。あ。板。ハ。五。傳。年。半。の。ひ。月。と。有。て。寒。暖。と。見。申。

ナリ。ほ。の。ゑ。ん。ハ。勞。味。

泥。鼈。の。う。づ。ぼ。ひ。ハ。ま。う。り。業。教。せ。ま。う。れ。ど。ち。う。き。こ。れ。あ。櫛。人。と。呼。ひ。て。櫛。板。勞。味。と。す。も。ん。中。い。も。う。り。あ。勞。味。と。せ。一。幸。れ。で。江。南。餘。載。小。僧。謙。明。滑。潤。好。為。詩。獨。居。一。室。每。

日燭中煮肉數斤。醇酒一壺。不俟燎
熟。旋割旋飲。以火為先。嘗中秋餘
月云。迢迢東海上。漸入雲衢。共
夜一輪滿。清光何處無。素興遙子
夜。鳴鐘烈祖寧之不罪也。召問其所以
泉。對曰。唯願鵠生兩脚。鼈著兩
手。腳肉多少。兩脚一齊曲伸。行止
半持半持。鼈鼈もひとつの裙きぬが兩方りょうがたに分
け。半持はんじに半持はんじ。半持はんじに半持はんじ。と。莫味の度かから
ば。殊ことに奇い妙めうと。莫味の度かから

人幸哉。たゞむれで頑い。され。鼈もくの首くびは見え
ぬ。すなれば。にあらず。此謙明の事こと。三井寺
の謡うたの文句に。鐘かねが撞つく。詩し狂きょうと。又鐘かねの音おとは江
南なん野の綠みどりに。蘇そ州しゆ有あるか夜よ鐘かね。僧そう夜よ半はん詠ぎやく
す。秋あき月つき詩し。因いん得いた清きよ光ひかり。何なん處ところ無ない之の句く。臺
極ごく撞つ鐘かね。故ゆゑ曰い。か夜よ鐘かね

ほ 店

俗語に往來の物ものを。もうんが並ならぶ。る。に
小道こうじ具ぐ。故ゆゑ曰い。か。而め。これ。故ゆゑ曰い。ほ。店てんと

リ。タ房ひえをきゆへ乾。リ。ナセトリ。モトヘーと。
おきひーに。箕。聯。緑。に。肆。肩下。以。芭。以。芭。
或。倚。或。垂。鱗。其。物。鬻。鬻。者。曰。星。火。舗。と
あり。おきら。す。名。ば。ナ。ハ。行。ア。ヤ。奇。義。の
か。の。ほ。から。通。る。事。あり。干。店。乾。舗。より。之。
星。舗。の。く。面白く。賣。ゆ。

貯。多。ハ。忙。驗。

自。矣。が。樂。日。詫。に。ま。久。人。き。え。い。ア。ハ。忙。碌。と
リ。ハ。は。い。き。き。て。す。り。と。え。ハ。一。枚。志。や。乾。驗。役。

君。こ。が。來。て。大。と。あ。や。東。都。も。所。革。紙。今
モ。利。ゼ。リ。ん。と。あ。ぶ。

全。唐。詩。遠。翻。刻。

知。不。至。齋。善。著。ハ。流。帝。卒。せ。ハ。懇。あ。り。し。に。
近。身。三。十。帙。が。全。部。と。せ。ー。が。著。ま。る。御。れ。ど。も
あ。じ。多。か。ら。称。ば。目。錄。と。翻。刻。全。唐。詩。遠。の
頃。代。被。す。

知。不。至。齋。第。二。十。九。集。

梧。溪。集。七。卷。

困學齋雜記 一卷

目三十集

尊德性齋集 三卷

塵史 三卷

金唐詩選 三卷

中吳紀年 六卷

廣釋 名 二卷

兩孝子傳親記 一卷

畫梅題記 一卷

金唐詩選跋

金唐詩選三冊。日本國河世寧所輯。余得之海島船中。以贈鮑條飲先生。有知不足齋叢書之刻。故以其冊。題入焉。未付梓。歸道山。今長居清溪。能成父志。屬余校讎。余惟日中去。中華僅三十六更。其得被王朝文掌之。數者久。故其人皆耽著述。就余所見。如山井神異之士。經孟子考文。其仰物

茂卿之補遺。茂卿自著有雜名二卷。
論語微十卷。林羅山有補羣善治要
三卷。天瀑山人校刊佚存叢善五集。
頤闡博而有考據。其詩集則雄於邦。李
昌子然放秀之南遊。綱載綠成亥遊
嘉西川翹之蓬蒿詩集。皆有斐然可
觀之處。茲又得以三冊。則日本之文學。
固非淺。而他邦所可並也。史全唐詩多
至數萬篇。必乎時盡熟於胸中。而茲後

博覽羣善。方知其人。其篇。其句。為搜羅
未盡者。乃摘錄而纂成之。於宜易事哉。
然則。向世寧之好学深思。復可知矣。余
亦攜。吾妻。繞補一卷。凡日中著述。多所
采錄。是。蓋亦。曾。宋。入。藝文志。昌。章。清
溪。之能。咸。父。志。使。亨。黨。得。見。所。未。見
之。蓋。誠。大。快。幸。也。遂識。數。語。於。其
後。

道光三年癸未立夏後十日吳江翁慶平流深氏跋

この全唐詩。上毛向世寧。纂輯。男三彦。ガ
拉。淳淳。三岁の席ある。よのく知れと
こちもねばつらず。かを車に席に。

昇。平の萬葉。ソリハ。さきのそり。

けり。けからす

鐘。みはき。の。喫舞。の。お。端に。忘。せ。す。み。ひ
う。の。子。鳥。夜。あ。く。に。啼。あ。う。す。シ。ヨ。ニ。が。ア。モ。敷。の。を。以
與。わ。け。づ。ざ。の。か。ら。す。タ。く。れ。く。こ。も。き。く。そ。モ。
シ。ヨ。ニ。が。ア。モ。又。活。連。の。サ。子。育。十五。日。より。八。月。初。き。

おんぶく。と。多。づ。け。二。ナ。人。又。三。五。十。人。連。く。と。駄。ヤ。セ
唱。教。故。う。い。ほ。レ。く。ち。め。其。唱。教。の。う。ち。に。
から。す。と。お。ん。び。ナ。リ。ノ。た。く。や。か。ら。す。と。え。び。ナ。ハ。ヨ。イ。ヨ。イ。あ
わ。げ。か。ら。す。う。が。新。町。く。う。せ。て。か。ひ。を。持。ご。ざ。し。
か。絶。く。と。う。よ。新。町。こ。す。し。に。河。は。岸。よ。り。
と。と。あ。れ。ば。れ。に。く。て。け。り。づ。か。ら。す。と。り。之。
け。り。づ。か。ら。す。と。り。萬。葉。ナ。主。經。に。我。汝。舊
里。化。成。鵠。鵠。示。怪。語。鳴。別。都。類。寫
壽。我。汝。舊。里。化。成。鳥。鳥。示。怪。語。鳴

阿和^{アハ}薩^{サカ}。とりふこの十王經ハ。偽經也。し
阿^ア僧^{ソウ}少^{サツ}り。奉^{ボウ}事^ジ。古^{コト}事^{シテ}考
かうとそろひ。がすてぞ。て。こに整^スよす。
飯^ミの蕉^ハ好^{ハシメ}む

明^{アマニ}の鍋^ハ老^{ハシメ}人^ハ。莫^{ハシメ}内^{ハシメ}網^{ハシメ}と^{ハシメ}人^{ハシメ}。よろこび^{ハシメ}
鶴^{ハシメ}の庵^{ハシメ}の風^{ハシメ}飴^{ハシメ}食^{ハシメ}。時^{ハシメ}人^{ハシメ}これ^{ハシメ}嘆^{ハシメ}。高^{ハシメ}
鍋^{ハシメ}巴^{ハシメ}老^{ハシメ}人^{ハシメ}。當時^{ハシメ}嘗^{ハシメ}譽^{ハシメ}の待^{ハシメ}。高^{ハシメ}山^{ハシメ}
流^{ハシメ}水^{ハシメ}詩^{ハシメ}千^{ハシメ}軸^{ハシメ}。明^{アマニ}月^{ハシメ}清^{ハシメ}風^{ハシメ}酒^{ハシメ}一^{ハシメ}船^{ハシメ}。借^{ハシメ}問^{ハシメ}
阿^{アハ}諦^{ハシメ}。作^{ハシメ}伴^{ハシメ}。英^{アヒン}人^{ハシメ}才^{ハシメ}子^{ハシメ}與^{ハシメ}神^{ハシメ}。仙^{ハシメ}

三重のけり

至長二年版也。それより叶紙に三重
印^{ハシメ}あり。あるをあや。油^{ハシメ}が^{ハシメ}うの^{ハシメ}きの^{ハシメ}を^{ハシメ}せ
せ^{ハシメ}と^{ハシメ}て。あれ城^{ハシメ}三^{ハシメ}を^{ハシメ}だ^{ハシメ}成^{ハシメ}り。

以^{ハシメ}むく

世俗に織^{ハシメ}と^{ハシメ}織^{ハシメ}と^{ハシメ}其^{ハシメ}は。む^{ハシメ}ろよ^{ハシメ}ひ。舊^{ハシメ}
織^{ハシメ}と^{ハシメ}其^{ハシメ}は。在^{ハシメ}と^{ハシメ}。む^{ハシメ}く^{ハシメ}蘭^{ハシメ}と^{ハシメ}織^{ハシメ}。も^{ハシメ}
む^{ハシメ}く^{ハシメ}り^{ハシメ}うち。お山^{ハシメ}と^{ハシメ}入^{ハシメ}の^{ハシメ}詫^{ハシメ}。が^{ハシメ}お
の^{ハシメ}事^{ハシメ}二^{ハシメ}ほ^{ハシメ}り^{ハシメ}た^{ハシメ}。盈^{ハシメ}と^{ハシメ}れ^{ハシメ}び。又^{ハシメ}お^{ハシメ}も^{ハシメ}

たゞひそとおへ。むきてハニ才四五丈又三寸
足。うちハ七キヤウに。あゝとくとくれり。かのま
をとせ程にてとれり。下ハすみほもせとゑをくらむ。
おほれり。うじもろくねきをとせ。事
あきよれり。たみをどは人にあくほ程を可
申也とす。

北の風

歌舞妓芝居風。娘房の舞扇に。おれとか。
おでやとか。ひづき仰ふともう。才とせとえをもす。

かくらとい初。石竹のえのほどよめ。娘居が
自かに遊たすとひべき時。みぼうらへて
とか。手ぼうらへてか。又ハ口ぼうらのをか。
りゆう。かうにいつのこわちや。芝居の言葉が
算。もはくして。普通のことをとひうちや。又戯作
とひをとづら。自系也とひ。禪。丈あり。これハ漢
土に我系也とひ。鹽。けんそ。捺。なぐる。あみ
門檻に。歌。秦。すありと。黒き板に白粉と
書。詫。一。無事。幸あれ。あれが書換えて。

圖 竹

軍法寔士見西行ひかみがまぐ
ほやせをす國作とあく差くま級
お身にいまとがや三殊在野よかと
度おせふ石年と位ある事裏
奇とをすの竹の所作かき一るの
在の都やサニヤちとと
うらで秀のうき

も里あるまざた

も里あるまざた

ほんくわ

ゆれととろくはの草のあらう
四子みサンヤ



唐先夜の音モヤハ

ぞのと生のや君子彈

あんとさんせりうとお

かく坂車とおとお

かくのをま

ホトテう連の山

アイナカくとくがくとて

かくつけとくがくとて



世羅お語
京柔兼
家公ち家
きく家
寺序大輔
トネキム
テ時老
五ひ生
根の少方
トシタ
トシタ

自來や。とすがめ俗謡のみぼうり來れ。れぢり
とのこゑをなまへ。我といふ文字と。自らといふ
字と。け換に心得るまい。をと。又。併。取
理に。東家の裏をとがまじて。かのとといふ。あ
どこの代も。す。京山政所。姫入院に。男女
おとす。時々。男の声のと。に。女。のと。に。
おとこよなたに。せのそらやうに。と。うれば。かのと。の
御。御。て。おと。

ううかきの假面

缺唇の假面紙は。と。ううふきとり。いれお
ゆえんうち。うざま。と。一休寮に。すゞもの晴
と。ふえ。うあ。これハ。用うら。がきの。うきと。よ
封せし。切。と。缺唇。ううふき。と。よ
聲き。うり。假面の。すゞ。と。紙。模。ううふ
と。ぬ。と。

きらう。あ。雪山紙。と。

天台。太僕。嘗。言。天台。名山。參。踰。立。皆。得。
覽。其。槩。矣。未。有。蓋。峨。嵋。之。奇。峻。者。余。嘗。

宿。繼頂光相奇。于時早秋。曉起。遠空
寒冽。不減嚴凍。為體峩幽闊。不能止。
時。寺鷄三號耳。妙月猶在遠更。更西極。
荒。空。有一點尖明。若火光者。因以問
僧。云。此天竺雪山為初日所照也。始
亦未信。次之日出。而此山隱。燒天際。
已。而。夕乞歸滿大千。則山光不復明矣。但
見一彩。惟耳。余昧。以言。乃知佛種言。初日
始。出。先照。金剛山頂。為呈證也。七八胡塵。

隣。甲乙。剝。袁江。又沈景倩
之。多。歷。跋。蕡。編。之。今。域。中。所。稱。雪山
禪。家。葱。嶺。釋迦。佛。修。遁。蘆芽。穿。膝
處。近。日。游。峩。眉。諸。君。盛。誇。絕。頂。之。勝。云。
日半。夜。卽。出。照。雪。山。之。巔。相。去。數。里。
如。對。面。王。恆。叔。士。性。有。訛。而。胡。之。瑞。又
嘆。異。之。引。佛。經。之。照。金。剛。山。為。證。而。其
實。不。無。按。今。大。雪。山。在。印。度。長。官。司
西。五。十。里。雪。曲。時。不。消。維。州。舊。志。云。

白豹嶺。與大零山相連。維州。即今戎州。
而松藩衛之零。檢。卽古鹽川慶縣。
有二窯頂山。其山西時。積雪。又天全招討
司東南白崖山。矗立如雪。近^名白崖。又有玉
壘。積雪。土人以玉堡呼之。可見峨眉左
右。為雪山者。甚多。多怪松。諸公所見
者是也。若西域之雪山。決非目力所及。
以可以理斷者。張率民畫慢綠云。自
岷州。趨宕州。至臨江寨。上天山西望。零

山。日晃如銀。其高出衆山上。岳人曰。以佛國
雪山也。有獅子一人。嘗見之。故^名西望雪山。
乃無夏城零山耳。據此說。則又從河西
洮岷。而登西蜀。其誤。不始於今日矣。又
卽肅行都司所屬永昌衛。亦有零山。頂
多夏積雪。望之瑩然。寒氣異於他處。
烏尤不下。與涼州相近。又臨洮府之河州。
亦有零山。接吐蕃境。蓋卽永昌之山
而望見之。隨大業初。吐蕃渾敗南

奪^ル雪山是也。又雪南麗江府西二十里。
有玉龜山亦名雪山。山嶺雪徑夏不
消。玉立^ニ峯^ノ仞^ノ千里望之若^ニ天與^ニ蜀。
杭州諸山相接。南詔累年尋僧住。
封為^ス北蒼山亦名雪山。予以^フ高
善^シ故^シ信^ス其^ノ寺^ノ事^ノ所^ノ防^ルら^ム
や^ハに^シ其^ノ中^ノ於^フ唐^ノ有^シ僧^ノ設^シ其^ノ所^ノ矣[。]
アリ^ス。

奪^スす稱遊里の時妻

後者口三味綿^シりふ事^ニ。法師問^イ曰。奪^ス役者
種^レ。一通^アあさやうにヤ^ハ。けども老^シいや^ハ
えの子^アれあひろう。大臣答^エ曰。げんこのあら
たてが年に。親^エいやしきぞ^アと何^ダ。お
もうちからせ^シ清^クる。あれハ町^ノのうとく人[。]
けのちが^シな道^ノはういも^シ。たゞむき^シれく。身[。]
城^ノ代^シを數^ハあく^シ。一^ハは子供^ノ一^ハく^シり[。]
又^ハほ^シう^シか。これ^ノ子^ハやうと^シく。奪^ス
き^シの子^モ有^トり。これ^ノ棄^シず終^ニ。藝^シ子[。]

ひのひ。おれの事あり。又ソレを以禁短氣に。便
様遊せ程。考歎あるをひかれ。藝子の聲は
く。偽多き。といふ是を以ての事あり。岐田
小出雲。軍法富士見西行に。いぬるく。とくえ
算。アリ。又筋手で。料理じくら。うこで。ハあぐる。
やむ。さざと風ふと思ひや。と有これハります
藝子。すすま。事。中。長。の。法。と。免。ヒミツ。まこと
母。久。節。打。栗。に。けらば。おも。一。や。け。す。

チ。走。流れ。ま。ので。ハ。候。媒。舞。子。風。呂。廻。を。ふ。比。丘。尼。
ま。ん。ち。や。く。げ。ち。夜。叢。地。を。の。に。廻。て。ハ。月。切。生。娘。
後。家。尼。妻。大。嫌。え。小。腰。え。業。の。向。お。渴。ぶ。お
ぐ。一。搗。げ。モ。り。い。だ。き。乳。母。お。乳。の。人。お。汁。大。玉。麻
の。子。供。ひ。お。ぢ。や。れ。糾。糸。サ。糸。科。麻。子。折。八。槻
子。を。織。中。居。下。女。そ。ー。た。約。き。ふ。け。テ。孫。の。伎
麻。が。ひ。て。凡。三。千。三。万。三。十三。人。ヒ。ア。マ。カ。リ。ヒ
キ。シ。ア。ト。藝。子。ヒ。リ。約。れ。ー。地。主。の。うち。に。付
活。ハ。ソ。ー。ハ。業。の。間。付。雇。ア。レ。遊。里。の。仲。居。ニ

うす。役者に三昧縁。又禁短氣とよばれ、
寛永は徳年向の作である。又軍法寫士え西
行ハ延喜五年あり。母名爺打栗ハ。寛保
六年あり。元和七年もて。寛延元年居の
八月十四日ゆ夕付の添役理也。假名手が忠臣
義にひきかやく。娘や藝子にいづれ嫁ふも。う
まくして。と有文昭和七年年板の奉行娘
袖り詫に。おきしげにてと。藝子の才媛也。名高ひ
が成。数十人中たゞうせ。とある。これらのが坂

をほで考かるて。寛暦明和のころより藝子
とりよきのかゑり。今ハ卦をハ卦をと
藝子の才媛もしくそーがす。後隨求さん金田の宿
えんりくさん。の隠ゆかさんと雙昌の入かさうる坂
まつらす。を送りまぐらす。山のうちあり
事かをだれ。一々きど。え又四年の年板自
作の母は之作を間り續け。難能事にさくや
てお花季を秋矣。英子とあおは南の大糸を。
長町うちよを官み。ちんを坂又後。ほく

主ゆ多岐。中行。住吉。浦に。と。お。輪子。河をせ
堅實。と。お。た。と。持。綿。井筒。あ。も。よ。ま。う。た。や
し。た。と。見。来。い。け。彦。が。産。五。ぐ。の。経。け。ゆ。
參。と。又。文。白。あ。る。又。何。う。り。け。ざ。む。と。よ。お。故。名。
計。の。画。え。考。ふ。る。送。船。横。南。側。ハ。芝。居
の。小。在。と。あ。り。却。あ。り。う。と。と。ゆ。こ。ふ。鳴。の。うち。に。始
れ。と。ふ。袖。弓。羽。残。き。て。も。と。始。人。と。少。す。ま。ひ。難。人
と。よ。る。き。い。サ。郎。以。袖。差。す。少。初。之。ハ。す。又。禁
短。氣。東。に。白。人。孫。客。と。い。又。之。に。り。少。お。ま。す。

内燈すうちと黒人毛、白い一告辭て客
城様をまじめ理あり。風呂懸草木、風呂の
湯姉ミコトが、客枕燒カツラヒヤと名を乞ひて、因ひゆ
之も。併に眾アリがせむお詫びオハグす。又、竹
郡シマの市、ハ皆アリと心浮ハニカミと申す。中止ハシメテ
の主シメ人と俱ハシメテ、あ丈ハシメテを立ハシメテて、
身ハシメテ、女郎ハシメテが稱ハシメテる。全竹泊ハシメテるこころうえ
柏ハシメテくといひハシメテやうにまことゆ。今、鳴ハシメテるのうちの始
今、鳴ハシメテる。寢ハシメテてゐとろに湯姉ミコトとすが、ああ

そのの夜のほどとまし

一之三

皇朝え。ほそぎちが。夏の部にソレで宵の
起は常。伏ほときほよもり音をとせむる。ハ
三月に晴れ。詩ノよどきをあわされども
宋の危薦舜。さう。燕山鶴が毎詩に。燕山三
月。柳三枝。独得。晴。鶴第一声。同
見。小桃孤獨下。主。勝。鷺客心驚
と。行。三月三日。いと。主。やく。心。よ。く。こ。ほ。ざ。す
さう。す。や

きのう人の憶謡理に似てマ

知不足齋初帙序の新。酈古文孝經
序に。太寧絶の幸。或り。其國太寧府遣
人貢方物。或。取。得。其。器。今。序。刻。是。善
之。太寧絶。未。詳。爲。何。如。人。日。充。多。世。藏
太寧。絶。豈。續。其。苗裔。或。以。官。爲。氏
者。乎。惜。來。十。萬。里。之。波。濤。難。盡。不
易。向。耳。と。リ。太。寧。府。紙。官。名。と。思。ひ。語。ア
リ。矣。又。智。囊。補。に。北。方。馬。生。駒。數

日則繫驥馬于山半。駒在下盤旋。母子哀鳴相應。力掙而上乃得乳。漸輕。繫高處。駒亦漸登。故能跨峻如砥。今養馬宜就高山所在放牧。亦倣其法。馬自可用。又倭國每生兒。貌明斂。鐵相質。即投于井中。歲取微練一度。長成刀利不可當。今勅衛之家。世武為業。而家無鋒刃。愚意亦宜倣其法。口口口口口口口

説我高とかいと云ふ。頬画に唐突が
日本刀歌に有る。贈我刀。棄須作
靶。青絲綆。重々碧海深淵來。身上毫
文。雜藻荇。恍然提刀起。四顧白日高
高天。罔々毛髮凜冽。生鷄皮。坐失炎
蒸。日方永。年。説倭人初鑄成。歲
埋藏。櫛深井。日淘月。陳火素盡。一
斤。櫛冰。珊瑚清冷。持以月。中研桂樹。
顧兔想知避。光景。と有深に識。井

ナと抜け入れ主。主と廻中にて燃えバ。利カ城
ララサヒトナレ。と思ふハ理所にて候。モロコヘ
銛カのミチルバが如シテア。長門の鐘石が刻する
石柱に。タキハ太刀の圖を画うきて上に。歐陽永
叔^{シヤク}タギ刀の詩、以縁す。世人識^{スル}とろくレバ
齋^{シヤク}です。又徐氏筆籍^{スル}に。嘉靖中^{スル}有較
倭刀。長七尺^{スル}出鞘地^{スル}上巻^{スル}之^ヲ。詰曲如盤
蛇^{スル}。鋒^{スル}之^ヲ則^シ勁自若^{スル}。といへ^{スル}は新刀^{スル}也^ス。
アマ^{スル}や。おほづくか^{スル}。又張玉^{スル}達秘藏^{スル}に

近時莫倭^シ折^{スル}刀劍亦後所見^{スル}。約十餘
口羅^{スル}大小不同^{スル}。俱^{シテ}有一道直光^{スル}。射^{スル}人則
致^{スル}納^{スル}遇^{スル}之^ヲ。不^シ立^{スル}死者^{スル}。といふこれハ實^{スル}
文^{スル}事^{スル}。此より唯タキハ刀城^{スル}事^{スル}圖^{スル}
あらずよ^{スル}

水引の章

三光院内府の詔に。禁^{スル}け^{スル}事^{スル}ニ有^{スル}故
用^{スル}ひられ^{スル}。化粧紙絹冊^{スル}。白絹の水引^{スル}
以^{スル}。一束^{スル}これ以^{スル}むすび^{スル}。贅^{スル}の水引^{スル}

考には萬時の水引。ほと水引ハ一向不用之レ。宋白
宋紅本紙水引紙。白紅と号シテ。紙林に用之
ナリ。むすびやうの筆ハ。中にも多シ。用あるが
序鑑ナリ。細にいき見せは。書きもの。ももむす
ナリ。河原かららの水引のる。三卷。はと
うの説に水引ハ紙林に。糊水取ひとゆに
水引トリ。又後水庵院。あけり司に。何と充
ありきの故。紙えを絞じ。或ハ紙あくおほひて。上紙
絞るやうの時。水引紙用ひず。或トドキ水引紙ハ

售き道具のうちにつれず。とくふ又ある人の説
水引のむすびやうの紙。紙むちるにあに。白紙たゞえ。
紅紙たゞえ。白ハ五色の毛とあり。左ハ陽貴き
毛とされば。白紙たゞえ。又あちくふ紙。後不。
雍明府志。紙引て。奥に水引の名あれ更贈ま
吉事の時ハ用ひ。ふ吉の時。ふ用ひ。説也。之。
用ゆるにたらす。雍州府志にハ漫。其水引
起之以白。以綾。引之故に。水引ト之ハ。奥の名と
おほきすれし。考るところ有るやうす。

一
さ
も
ち

一之十九

櫻餅。廿八年。ちとひよや。五年。
二年。年板。今。貴。お。世。扇。に。序。餅。の。お。歴。に。
食。ぬ。不。理。也。而。世。に。合。ひ。ませ。ゆ。

蒙古文字

十二。まが窓。ヒリ。文字城。磁石の方角。ヒリ。
秀。又手形や。あひ。その。筋。を。ど。と。秀。
す。す。り。オ。と。ヒ。文。字。ハ。羅。ヒ。シ。れ。え。軍。中。に。
國。か。を。あ。す。め。食。い。て。飯。を。烹。き。夜。を。食。

あらまく。おこさくアサヒ林^リ。むきあひあら名城^{マツシタ}。よ
そりとぞぞくと諸々^{アラタニ}。鶴^{ハク}。あり。字考曰子半以行
軍。晝焼^{ハタケ}。夕撃^{ハタフ}。と以

うとく工字萬葉
昔傳拾葉に中ごわありニ來あひハ。被と裏。
冷泉家乃。詩と美く。鳥外律有之小
年忌法事。ちく日
日本の字文ハ。五山の僧。あはせ。多尼。多尼
也。佛者流の事。せ第一流耳。ちく。可。快

事。わざと。奉仕する。事。又佛者。儒。不。儒。
道。坎。月。汝。教。事。以。東。是。詔。に。佛。者。年。忘。
の。事。や。奉。一。切。經。の。うち。を。これ。以。夕。
納。言。信。西。十三。年。忌。故。櫻。町。中。納。高。
城。修。せん。と。傍。し。其。義。僧。高。野。明。遍。
之。れ。故。曰。ぜ。す。共。兩。人。や。信。西。の。子。す。り。佛。
者。ハ。四。十九。リ。ヨ。レ。や。む。其。後。ハ。儒。者。の。參。
法。代。假。使。て。年。忌。ヒ。ツ。事。故。も。む。と。リ。よ。
未。相。玉。寺。瑞。漢。一。切。經。試。考。テ。ア。ミ。く。こ。ふ。

經。の。うち。に。忌。手。船。紀。の。事。考。い。す。古。に。
佛。者。儒。道。代。傍。往。て。こ。れ。以。用。ゆ。ま。す。り。と
之。可。あ。れ。ど。是。四。五。九。リ。以。佛。者。の。法。よ。り。す。を。
ら。す。陝。餘。叢。考。に。七。之。祭。實。不。始。於。唐。
桜。北。史。胡。國。珍。死。魏。明。帝。為。擧。哀。詔。
自。始。薨。至。七。之。皆。為。設。千。僧。齋。今。七。
人。出。家。龕。人。孟。寧。死。靈。大。后。於。其。七。
日。設。二。百。僧。齋。北。齋。成。帝。寵。和。
士。開。將。章。晉。陽。而。土。開。母。死。帝。聽。

其過^ニ七日^ノ後續^ニ發。又孫靈暉^ニ為^ニ南陽
王緯^ニ師^ニ緯死^ニ每^ニ至^ニ七日^ノ靈暉^ニ為^ニ請^ニ僧
設^ニ齋^ニ以^ニ則^ニ做^ニ七之明證^ニ蓋起^ニ於^ニ元魏北
齊也。後^ニ元魏時^ニ道士寇謙^ニ之教^ニ盛行^ニ
而^ニ道家^ニ練丹^ニ拜^ニ辛^ニ以^ニ七^ニ四十九
日^ニ為^ニ斷^ニ遂^ニ推^ニ其^ニ法^ニ於^ニ送終^ニ而^ニ有^ニ共
七^ニ之^ニ制^ニ耳^ニ。これ^ニ以^ニ佛者^ニ流^ニの法^ニあ^ニす。
道家^ニの法^ニ古^ニ可^ニ比^ニ也^ニ。又^ニ古^ニの數^ニ
門^ニ參^ニ。重^ニ雨^ニ逸^ニ陽^ニ紙引^ニ。人^ニ初生^ニ七日^ノ

為^ニ臍^ニ死^ニ以^ニ七日^ノ為^ニ忌^ニ一臍^ニ而^ニ一鬼威^ニ。一忌而^ニ
一鬼散^ニ。と^ニよ^ニ古^ニの說^ニ推^ニ也^ニ。ま^ニ葬^ニ
む^ニに<sup>。奇^ニ古^ニ車^ニあり<sup>。北^ニ丈^ニ林^ニ龜^ニ傳^ニ也^{。石^ニ}
玉^ニ死^ニ七日^ノ而^ニ葬^ニ。有^ニ官^ニ者^ニ三日^ノ。庶^ニ人^ニ一日^ノ。皆^ニ以^ニ
亟^ニ盛^ニ屍^ニ。敲^ニ舞^ニ導^ニ往^ニ喪^ニ。至^ニ水^ニ次^ニ移^ニ薪^ニ焚^ニ
之^ニ。牧^ニ其^ニ餘^ニ骨^ニ。又^ニ則^ニ納^ニ金^ニ贊^ニ中^ニ。沈^ニ之^ニ於^ニ
有^ニ官^ニ者^ニ以^ニ絅^ニ贊^ニ沈^ニ之^ニ海^ニ。庶^ニ人^ニ以^ニ瓦^ニ送^ニ
之^ニ江^ニ。男^ニ女^ニ皆^ニ截^ニ髮^ニ隨^ニ喪^ニ。至^ニ水^ニ次^ニ不^ニ
哀^ニ而^ニ止^ニ。婦^ニ不^ニ哭^ニ。每^ニ七日^ノ燃^ニ香^ニ散^ニ花^ニ。復^ニ</sup></sup>

悉盡哀而止。百日三年皆望之。とひふ。又
佛者ありむ。おもひあらず。

足されぬ屏風

宋の洪邁が俗考に迷樓の詔引て楊州
刺史獻^ス燬帝^ニ烏絹屏^ス。帝曰繪者假
也。以得人之真形^勝。勝繪者信^ト。是
真形の文核^{カタハシ}。未だ多々^{タチ}。其^ノ津に
臭^ク千載^ミ。歎^スすとひふ。きり。

アヤシキ世

板橋詣^ハ。杉の輕^カ。袖の大小^ハ。隨^ハ時^ハ、
とよもろ^シの衣服^ハ。板橋^ハ、ゆく^ハ、おもひ^ハ
うなば。唐^ノの後^ハ。板橋^ハ、ゆく^ハ、おもひ^ハ
辯^ハ。とおもひべき事^ト。おもひ^ハ。をの^ハ。は
まろ^シ。油^ハ。頭^ハ。りひ^ハ。から^ハ。ばえ^ハ。る^ハ。
す。事^ハ。を。時^ハ。遊^ハ。宿^ハ。即^ハ。月^ハ。代^ハ。御^ハ。す。と。元^ハ。又^ハ。
あり。唯^ハ。人^ハ。情^ハ。て。そ。ま。ん。事^ハ。お。ち。ろ。か。ら。ず
日^ハ。新^ハ。し。き。幸^ハ。以^ハ。辯^ハ。し。お。も。ひ。そ。そ。し。と。の
辯^ハ。と。よ。事^ハ。人^ハ。金銀^ハ。蔵^ハ。く。森^ハ

物也。そろざすまに。萬事成否をうる。家業におこなふ衣賜御がまごに心がかり。紙
絆ときとおもひ遠く。世間よのせじせ織に。あひ人
たふこと紙かみ等など。傍そばに。導みゆむ紙かみと
墨すみこゑきのすれば。我を知らずと。野風と。紙かみ
をそしり。見え紙かみと。放蕩家まわらわと。混雜せ
ゆ車くるまあきらめ。あり。草の紙かみの紙かみと。通鑑
りふぶと。放蕩まわらわ。徳とく。姫東生ひとうと
思ふづ。よのびをちく。家業かぎょうと。おとこ

らす。陶家の富城を。先祖の名が揚げ。せ上の
融通城を。と。儀恩ぎおんが。一五。押石を
あきらめ。うち。聞きこ。紙かみと。代。唐の序
面おもてを。よす。されば。紙かみと。やり。行ゆれば。すま。れ。ち
心こころ醉さゝ。紙かみと。おもひ。有。これ。紙かみと。よ。あ。何なんか
このやうれ。心こころ。極きわい。す。お。ハ。別。う。れ。と。業わざ。す。藝わざ
子こ。辛から。愛こころ。れ。ち。り。け。れ。が。我。業わざ。おつと。も。て。き
く。に。業わざ。ば。せ。れ。え。ち。紙かみ。紙かみと。よ。ま。ざ。舞まい。圓まん
樂らく。詠よ。諸。事。お。た。り。こ。持。ふ。も。ハ。夕。歌かぐ。く。う

と。かのまがいわく。幸原あり。おじ
まよしへ。菊膳^{きくぜん}御州^{ごしゆ}ハ強^{こわ}す。は風にうめひと
有^あ。エビ佐^{えびさ}。三味線^{さんみせん}。小^こじづ^{じづ}舞^{まい}。又歎^{かたむ}絶^{ぜつ}舞^{まい}
高^{たか}橋^{はし}に^ハ是^その技^{わざ}爲^{ため}。口^{くち}せ。うの^の謀^{ぼう}。意^い
格^{かく}されどもと有^あればり^りへたり幸^{さい}。豈^{いか}
并^{そな}度^どの業^{わざ}とす。他^た業^{わざ}ふまよ。ふむまよ。すら
すりりよまにや^うす^すて野^の暮^{ぐら}とよ^ぎまよ
まよ。ゑうふ業^{わざ}の餘^よ力^{りき}。人の心業^{こころ}と見る
こう。舜^{じゆ}とひきうち^う固^いより人情^{じんじやう}の元^{もと}也[。]

たちが声風^{こゑかぜ}と解^{わか}る。因新^{いんしん}と云^いはば、南^{みなみ}せふ舜^{じゆ}
風^{かぜ}より。シル^{シル}環^{わき}の端^はうき^きと^とごとく。里^{さと}事^{こと}
又怪^{あが}うねば。白^{しろ}いぬ^ぬ南^{みなみ}せふひ^ひ帝^{だい}王^{おう}と^と舜^{じゆ}と
つぶ^{つぶ}舜^{じゆ}生^う。此^こ跡^{あと}を^をす。まよふ^{まよふ}うらぬ^{うらぬ}と^と風^{かぜ}
風^{かぜ}俗^{ぞく}を^をうけ^{うけ}むか^{むか}ねば。大^{おほ}西^{にし}安^{やす}と^とゆ。里^{さと}
ふれ^{ふれ}が^がいき^{いき}ば^ばと^とせ^せ。時^{とき}は^は緯^わ経^き流^るて
手^て厚^{あつ}く^く。うすき^{うすき}が^がよ^よう^うば^ばと^と風^{かぜ}思^{おも}ひ
ゆう^{ゆう}う^うね^ね。むし^{むし}の^の絹^{きぬ}故^のあんに^にソ^そひ^ひる^る有^あ
面^{おもて}西^{にし}女^{めの}密^{しづき}氣^きに^に達^{たつ}す^す。即^{そく}ナ即^{そく}モ^も連^{つづ}く^くの^のき^きん

事。中居のかたと之を下せに。たのふ。よ帽の
ひろきが、うとう。大き様にうけを取して、
おみに。うしにほときらばむ。の多
あくも。取乱すまでて、たて。紙船十五枚あ
まつて、宛名の芳清庵さんと貢て、うち賣
通ひて。花鳥小太夫、碧石やの葉うき子
死前、千尋ちか、あくまこく、まく山
小庵、おみゆ。花くまよ、君の名づか
うあり。ふくらぎの、のれさる代尺三。

まこと花下、遼山に、幕が下りて、すきを、今に古
風と、さりぬ。むしの、幕のが、またに、数々の、小被
うごて、小被幕と、せりて。古き画、そまに、
すき。口、またに、海東新羅に、タロウひく、あ被
ゆき、ひかの、花下、あを。羨山吹、ひく、と、おおを
さす。是あが、小被幕の、うらゆ、ふ。と、あり
無と、併せて、小被、と。時れこかげ、と、お、又丹
前と、よこと。何く、舟波の、宇の、門前、に、併せ
せー、おお方を。おはげ、と、おおと、名

ソの故あれど、あざ謹跡なしだす。け訶
京都のと重いしにむくへ上方をもひ
く詞也。ふ徳川年西証一風が作。今原
良うほじゆとよせ紙に南代の芝居
付の即樂昌。ことに古今新舊の座を記
した戸塚又生鷗新丸郎。又即の座を記
す村士三郎。ちんじん。今横井前よりやあ
役者。とりておきまくらの初とくゆ。又その田
舎者とのむらすば。娘安奈にむくへ

サのたゞと在むこと。遊モナリガハ。怪我ふをさ
きするをうて。今たゞとのまをせと精進城
すれお家ハナレキアトリ。又俗語にるるを
したあく。ソレボラモリ女ひけ。とすをれ妻
り。やまき切る。と原氏うそぼくに。何故まつて
間男をもまする。母にたすをまなへ。勘定女を
口筋と。とふ又姫客氣に蓮葉女とふ。そ
つらをかとけねば。そ時のがくらとよれあまく。
よこみゆ俗にうごきは原氏うりげどす。

あ流の約鴻田。針をひくともえゆい。から
うる第の仕事に勤き。先梅をやくにとせし。
経のがくくうらげのうに十三か月もすうせ鳴常ば。
がまんぬむすもえ。すりやきやへやほくのかへ
草。うれすみゆきゆく。と有文寛保二年
為永太吉角の作。百合雅高森軍計に立
帰就する。の葉次。夕流の勿所風。ゆき
お。薔の傳子狂歌。そじちよの。おね織。
とふ文句。か笑玉藻原合戰ニモ。口やくれ多

白あさ。又寛延とのせり。舟御容氣に。あ世風の
すめいの小被。白縫のほそせをすにうち。船川
屋敷さん。がいふて繕。社香がに名香くゆせ。
又我がおかま。時。せよの吉風かへて。江戸がの
子の肩出。もやう。一天八守のあをと袖に。わらさき
うられ。ほの併起。心が。今時三更。了
ちよ。大刀。ひぢをめぐる。うつめひのをやる
せ。とありかくのじく。わらぎ。わらぎと。
わらぎと。とすれ人ふ。又撃経室に。

近ひかと緒子町蟹昌仕出だえ。捨公すくおとよよ
位すなふばをそと齋さいても。高たかきこるよと。
李りまが軍ぐん心こころいいれいばば事ことのことななき
ありびあと。都つの夢ゆめうれうれすすののい驚おどき。と
緒子町おも。近ちか野のやうににるるよと。今いま
ハ九十こゑゑの車くるまなれば。時ときははトトよりよ、
こころろるるて。太おまの高たか料りょうひひい。緒子町原はら
といいて。ソそもむむくくをかかくく車くるま。附つき。唯ま訴う
蟹昌かにふふんんだだややと。今いま代しろももよよききみみと。あ

「かたじける車くるま。時ときははトトとと自じ由ゆににあり。
金銀きんぎんををきく。山さんををきるるすすれれば。中なかももくくあ
ああききととよよだだれれ。すすののすするる事ことをを思おもうう。
ううにに有あ難むずき時とき。むむくくよよけけくく車くるま
よよききむむ。おおののききらら貸はすするる車くるまあるる。禁きん
禁きん乗のりにに本ほん紙紙がが補ほづづて。之のははがが持もつつ國くに。是これに
みみササ島しまののすすにに。金きんををねねるるがが有あゆゆ。いい生うすすかかたたと
おおきて。太おま天てん神じん。五ご紋もん十じゅう牧ぼく。あるるにに。かか
わわががええ。おおれれとと房ぶををととげげば。ささううががいい手て

サ郎に。お達いをすねて太良とあ。祓有て。やのま。寺なきれ。かじあサ郎より。又ほゞササ郎ハ。一り。花紙五十枚ぞハたゞぐら。太支天神にあ。そ大屋ハ。まのこ床ぞ。心かくお人ノミ。あり。と有き時。世智が。ときせるれども。つよだ。と。サ郎の紙の。が。す。紙。か。う。と。を。の。い。け。や。ま。二三。ち。く。か。き。め。ハ。赤。ま。く。と。ひ。ち。り。無。ふ。新。ま。裏。さ。く。あ。も。も。も。紙。紙。に。行。う。き。ま。の。と。ひ。く。と。ふ。と。こ。わ。こ。紫。や。の。煌。の。ま。く。ぎ。れ。と。あ。と。又。

かと。や。車。ハ。新。所。に。嶺。寺。に。嶺。寺。り。あ。る。て。ま。風。も。る。き。の。ち。わ。に。嶺。寺。に。嶺。寺。紙。き。ぎ。す。よ。法。師。く。名。深。の大。屋。あ。ま。一。時。名。深。の。え。ま。お。寺。く。先。約。と。ゆ。き。て。お。代。す。と。ゆ。め。ゆ。祓。祓。と。く。く。く。く。各。深。の。大。屋。ふ。す。の。楊。柳。柳。そ。と。き。よ。す。有。それ。ば。先。約。の。拂。柳。の。件。居。ハ。サ。郎。が。と。ま。の。達。り。兵。方。楊。柳。の。中。ア。ハ。奉。マ。テ。洋。ま。ま。う。ア。チ。ア。リ。モ。ト。紙。ゆ。う。は。ズ。と。の。法。た。と。ハ。太。支。の。無。法。寺。江。え。引。ゆ。き。の。名。ハ。ゼ。や。ぬ。

かくちハ久遠とつの名すゞ

久次ひにアちりも流花江せエかアむウロツ

ヒイサアちイイ、わア、ト、イ、マア、ヒ

サア、ちイ、さア、ちく、ヒイ、カア、ちイ、セエ、ヤ

はア、セエ、セモ、ヤア、マア、セモ、モ、モ、伊たア

イイセエモアセエやアマアセエひに次

太、まの名が一遍引かずの名が三遍

かくちの名が七度へよるもさり

かくちの名を手と縁とが。アのワヤアモキズム

アミ

夜軍の繪と廻る

某者物語。沈田彦萬のうとと

夜軍

夜の繪と手とをひてあると

いきとを家とりひす傳のれ

廻

門柱や構のうちな絵と傳のれ

とを高くひらくと

けいもや大立物四手がれ
さくても用ひぬ多くは

陶か新著巻之玄 終

西大寺大五郎の手本



